

今村、福岡、紙の各議員が農水省を追及！

今村雅弘議員、「開門期限まで時間が無い中、必死さが見えない。」

【衆議院・農林水産委員会

2012年3月21日

自民党の今村雅弘衆議院議員(比例九州)が21日の農水委員会で質問に立ち、国営諫早湾干拓の開門調査に向けた農水省の対応について「開門期限まで時間がない中、必死さが見えない」と厳しく追及。対策工事の工程表を含め、開門までの道筋を示すよう求めた。

今村議員は、代替水源となる地下水調査などが開門反対派の抵抗で進まない現状を踏まえ、「来年12月の開門期限まで時間がない。さらにノリの漁期を考えれば(開門時期が前倒しになり)さらに厳しい。工程表はどうなっているのか」と農水省の対応をただした。筒井信隆農水副大臣は「現地では(調査実施に向けて)説得活動を必死にやっている。それは理解してほしい」とした上で、工程表については「反対する長崎県にどんな影響を与えるかを考慮しなければいけないが、一定の時期がくれば示さなければいけない」と思っている」と検討していく考えを示した。

質問を終えた今村議員は「長崎県への配慮だけでは進まない。きつちり工程表を示し、大臣自ら先頭に立って説

い」と指摘。開門実現に向け、今後農水省の姿勢を追及する考えを強調した。(佐賀新聞より)

また、今村議員は大臣と農水省に対し、「本当にひたむきな、やはりこれはやらなければいけないんだという気持ちが必要ではないから、長崎県もちよつとごねれば、ああ、農水省は資材搬入もやめたよ、ストンプしたよ、そういう風になってきている。」と追及した。また開門の時期について、「ノリをとるときにはなかなか大きな工事はできない。」との今村議員の質問に対し、筒井副大臣からは「ノリの養殖に悪影響を及ぼさないようにやる。」との回答があった。

福岡資産議員、「ちよつと開けて影響でないようにやるんだというのはそもそも本末転倒だ。」

【参議院・農林水産委員会

2012年3月25日

続けて、自民党の福岡資産参議院議員が、22日の農水委員会で農水省の対応について質問を行った。

福岡議員は、鹿野農水大臣自身も佐賀県訪問について、「長崎県だけでなく、双方に耳を傾けていただく」ということが必要だ。」と追及、農相から現地入りにつき「今検討している」と前向きな回答と引き出した。

また、来年中に行わなければならない開門の工程について、政務官の「ノリの養殖については(3の2開門の場合)それほど大きな影響は出ないんではないかという判断をいたしております。」との回答に対して、「影響が出ない開け方やるって、どういう影響があるかを調べるために開けるわけですから、一番ちよつと開けて影響でないようにやるんだ」と追及した。そして「いきなり全部開けて多大な影響が出てしまうと良くないわけですから、最初は少しずつ開けると言うことがあってもいい。ただ、5年間ずっと3の2で固定するかどうかというのは、開けてみた中でその状況を見ながら当然変化があつてしかるべきだ。」と追及を続けた。

さらに上告断念時の菅総理インタビューを資料に、制限開門にこだわる農相に対して、将来的には全開に向かうべきだと厳しく追及した。

紙智子議員「いついつ布陣で、福岡高裁の判決を本気で履行する気があるのか。」

【参議院・農林水産委員会

2012年3月28日

続いて、日本共産党の紙智子参議院議員が、28日の農水委員会で質問を行った。今年度の有明海で発生している甚大な被害について追及すると、鹿野農相は、「今後

必要な措置というふうなものについても取り組んでいかなきゃならないと、こういう認識を持っている。」と答え、岩本農水副大臣も、「(有明特措法の)措置による支援が可能か検討してまいりたい。」と答えた。これまで農水官僚は特措法の適用に消極的であったが、官僚の態度が農水政務三役の意思と乖離していることが明白となった。

ノリの被害については一般的に8割程度まで回復している、とする同副大臣の答弁に対し、「一般、平均的に言わないで欲しい。個々それぞれの地域差があるし、漁業者の被害状況を見て欲しい。」ノリは機械整備にお金がかかるから利益が出ない、これから家族をどうやって養っていったらいいかわからないと、こういう声も出ている。」と被害に苦しむ漁民の声を代弁した。

また、当時諫早干拓を推進して裁判を争った農水省の農村振興局の「当事者」多数が、現在九州農政局の干拓事業部署(農地整備部)の幹部となっていることにつき、「裁判で下された判決を履行するときに、ずっと干拓の事業を進めてきた人たちが、判決を受けながら、また同じメンバーでやっている。こういう布陣で、福岡高裁の判決を本気で履行する気があるのかと、こういう疑問の声が上がっているわけです。」と不審な「人事交流」に、疑問を投げかけた。